

# 城南総合研究所 調査報告書No.24

## 小泉純一郎元首相が、小田原市内の自然エネルギー発電施設や創エネ・省エネ設備を視察！ 講演会も開催！

平成 27 年 9 月 3 日（木）、城南総合研究所の名誉所長である小泉純一郎元首相が、自然エネルギーの地産地消に取り組んでいる神奈川県小田原市を訪問し、「ほうとくエネルギー」が創設したメガソーラー発電所や、大正時代に造られた小水力発電所の遺構、「鈴廣かまぼこ」の誇る創エネ・省エネ設備を視察するとともに、「鈴廣かまぼこ」の鈴木悌介副社長が代表理事を務める「一般社団法人エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議」主催の講演会で『日本の歩むべき道』と題した講演を行いました。

### <ほうとくエネルギーのメガソーラー発電所>

ほうとくエネルギー株式会社は、平成 24 年 12 月に自然エネルギー発電の普及をめざして小田原市内の企業が出資して創設されました。小学校などの公共施設で屋根貸し太陽光発電事業を行う他、平成 26 年 10 月には市民ファンドを組成して小田原市久野の山林に 1 メガワットの太陽光発電所を建設しました。



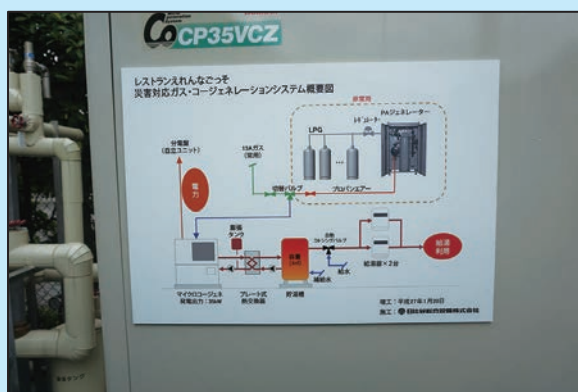
## <小水力発電所遺構>

小田原市久野の森林には、大正6年に建造された小水力発電所の遺構があります。これは、山林を所有する辻村さんの祖父が建設し、製材所や自宅などの電力として使用していたほか、紡績工場への売電も行われていました。送電網が整備される昭和23年まで稼働した後、山林の中に放置されていましたが、東日本大震災後に小田原市の地元企業や民間団体、学生ボランティアらの手で整備されました。



## <鈴廣かまぼこの設備① えれなごっそ>

「かまぼこの里」内にあるレストラン「えれなごっそ」では、地中熱や地下水熱を店内空調に利用しています。特に深さ5メートルの地中熱は「夏は涼しく」「冬は暖か」であり、この特性を活かした換気システムで、人の体にも地球にも優しい快適な室温を保っています。また、災害対応ガス・コージェネレーションシステムを導入しており、災害時には非常用LPGに切替えて必要な電力を確保することができるため、災害時の避難所に指定されています。





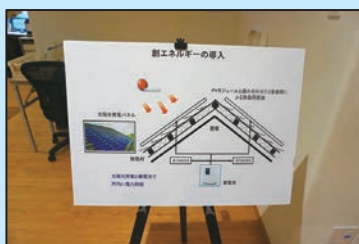
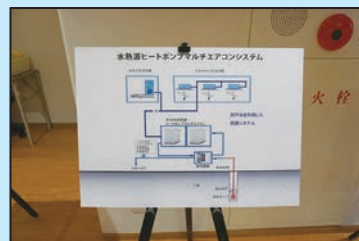
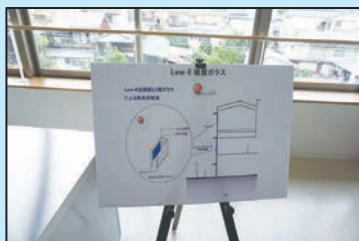
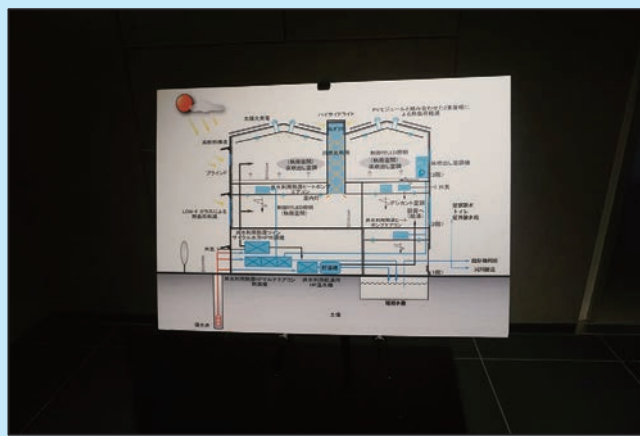
### <鈴廣かまぼこの設備② 風祭店>

鈴廣かまぼこ風祭店の屋根には、通常のソーラーパネルのほかに、太陽熱給湯設備があります。夏期には水温が 70℃に達し、太陽熱による給湯だけでレストランの厨房で使用する湯水の 7 割をまかなうことができます。



### <鈴廣かまぼこの設備③ 新本社>

本年 9 月 1 日（火）に竣工した鈴廣かまぼこ本社事務棟のエネルギーシステムは、経済産業省の「ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング」の認定を受けています。壁の断熱、ガラスの断熱、自然光の利用、太陽光発電に加えて、地下水利用の空調・温水供給の仕組みを最初から取り入れて設計した結果、エネルギー削減率 54 % を達成しています。



## <講演会>

小田原お堀端コンベンションホールにて「一般社団法人エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議」の主催による講演会が開催され、小泉純一郎元首相が1時間にわたり講演を行いました。鹿児島県の川内原子力発電所再稼働後、初めての講演であることから広く注目を集め、500名を超える聴衆で会場が埋まったほか、テレビ局や新聞社など多くのマスコミが集まりました。講演の内容の一部をご紹介します。

- 「鈴鹿かまぼこ」に代表されるように、小田原は蒲鉾の生産が有名だが、これは箱根から流れる綺麗な地下水があるからこそできるものである。この美しい水や空気、豊かな自然を守るためにも、原発はゼロにしなければならない。
- 専門家は「原発は安全で、コストが一番安く、クリーンなエネルギー」と言っていた。私も、原発事故が起きるまでは専門家の話を信じていたが、自分なりに勉強してみて、これらが「全部ウソ」だと分かった。
- 日本は2年間も原発なしでやってきたが、暑い夏も寒い冬も停電しなかった。原発ゼロで十分にやっていけることを証明した。政府が自然エネルギーの拡大を阻害しなければ、原発ゼロは実現できる。
- 人間は目標があれば何歳になっても頑張れる。原発ゼロは夢のある、実現性のある目標だ。これからも焦ることなく諦めずに原発ゼロの国づくりをめざす運動を続けていく。



## <「一般社団法人エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議」とは>

中小企業経営者から組織されており、既存のエネルギーシステムからの転換を志向し、地域でエネルギーを創り・使うことを進め、経営の現場での徹底した省エネ・節電の実践を通して新しい現実を創ることをめざす実践のネットワークです。

《問合せ先》 Tel：0465-24-5180 Fax：0465-23-2225 メール [contact@enekei.jp](mailto:contact@enekei.jp)